

第3部 大気と海洋		第4部 宇宙の構造	
年代	できごと	年代	できごと
1902	電離層の提唱 ケネリー(アメリカ), ヘビサイド(イギリス)	1905	巨星・矮星(星の区別)の発見 ヘルツシュプリング(デンマーク)
		1908 ～1912	セファイドの周期光度関係の発見 リービット(アメリカ)
1919	極前線の理論の提唱 ビヤークネス(ノルウェー)	1913	HR 図の完成 ラッセル(アメリカ)
1922	数値予測による天気予報 リチャードソン(イギリス)	1925	シリウスBの高密度を確認(白色矮星) エディントン(イギリス), アダマス(アメリカ)
		1927	銀河系の回転の観測 オールト(オランダ), リンドブラット(スウェーデン)
		1929	宇宙膨張の発見 ハッブル(アメリカ)
		1931	宇宙電波の発見 ジャンスキー(アメリカ)
		1934	超新星の性質の解明 バーデ, ツヴィッキー(アメリカ)
1936	人工雪の研究開始 中谷宇吉郎(日本)	1938	太陽熱源の原子核反応説の提唱 ベーテ(アメリカ), ワイツゼッカー(ドイツ)
		1944	天体の種族の発見 バーデ(アメリカ)
		1944	星間中性水素からの電波放射の予言 オールト, ファンデフルスト(オランダ)
1947	ジェット気流の発見 シカゴ大学(アメリカ)	1948	ビッグバンモデルの提唱 ガモフ(アメリカ)
		1951	星間中性水素からの電波放射の観測 ユーイン, パーセル(アメリカ)
		1956	宇宙元素存在度の推定 ユーリー(アメリカ)
		1961 ～1963	クエーサーの発見 サンディージ, マシューズ, シュミット(アメリカ)
		1965	3 K 宇宙背景放射の発見 ペンジアス, ウィルソン(アメリカ)
		1967	パルサーの発見 ベル, ヒューウィシユ(イギリス)
		1969	アポロ 11 号で初めての月面探査・岩石採取 (アメリカ)
		1970 ～1981	太陽系形成の京都モデルの提唱 林忠四郎ほか(日本)
		1971	ブラックホール候補の同定 (日本, アメリカの数グループ)
1977	気象衛星「ひまわり」(GMS 1 号) の打ち上げ (日本)	1978 ～1986	宇宙の大規模構造の発見 ゲラー, ハクラほか(アメリカ)
1982	オゾンホール発見 (日本, イギリス)	1987	超新星からのニュートリノの検出 カミオカンデグループ(日本)
1989	海洋大循環の解明 ブロッカー, デントン(アメリカ)	1990	ハッブル宇宙望遠鏡の打ち上げ (アメリカ)
		1992	3 K 宇宙背景放射の非等方性の発見 COBE 衛星チーム(アメリカ)
		1998 ～1999	加速的宇宙膨張の発見 パールムッターほか(アメリカ)
		2003	WMAP衛星による 3K宇宙背景放射の非等 方性の高精度観測 WMAPチーム(アメリカ)